

今週（6月19日から6月23日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期間に入ったばかりであることから週初は落ち着いた展開で始まったが、次第に各業態から堅調にビッドが入るようになり、20日以降はレートがやや上昇する展開となった。当座預金残高は350兆円台半ばから始まり、20日の国債の大量償還の影響で360兆円台まで増加した。

無担保コールO/N物は、週初は、地銀業態から▲0.06～▲0.055%、証券業態から▲0.07～▲0.06%近辺、都銀・信託業態からは▲0.086～▲0.075%近辺の調達希望となった。積極的に取り上がる先は多くなかったものの、各業態から堅調なビッドが入るようになり、20日以降は出合い水準が若干切り上がった。週末23日は複数の先から強めの調達意欲が示されたことで、やや強い地合いとなった。無担保コールの市場残高は週を通して7兆円台前半で推移した。ターム物は、四半期末越えのオファーが減少しており、月内物の1W物程度のショートタームを中心に▲0.04～▲0.03%の出合いが散見された程度であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、22日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,310億円（期落ち額2,580億円）の札割れとなった。

●レボ市場

今週のO/N GCは、▲0.075～▲0.05%のレンジでの取引となった。

16日の新積み期からマクロ加算残高の基準比率が変更されたことで、投資家からの積極的な資金調達が週を通して見られた。19日のS/N(6/21-22)は、短国買入オペの通知後も引き続き売り物が多く、レートは下がらず▲0.075～▲0.07%の出合い。20日のS/N(6/22-23)も▲0.075～▲0.07%の出合い。21日のS/N(6/23-26)は、週末の3日間を挟むことで投資家の資金調達が強まり▲0.07～▲0.065%の出合い。22日のS/N(6/26-27)は、短国3M発行要因により▲0.065～▲0.06%にレート上昇。23日のS/N(6/27-28)は、国債・短国買入オペが通知されたものの、投資家のまとまった資金調達意欲が強く▲0.06～▲0.05%までレートを切り上げた。

SCIは個別銘柄では5y127～131、10y336～346、30y49～54、40y9などの銘柄にビットの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、このところレート上昇地合いとなっていることから、慎重姿勢が強まり、週を通して様子見の展開となった。

22日に実施された3M物の入札は、もう一段のレート上昇も予想されたものの、WI取引において▲0.099～▲0.095%の出合いが見られたこともあり、平均落札利回▲0.1002%、按分落札利回▲0.0962%と事前予想より強めの結果となった。セカンダリーは▲0.098～▲0.097%の出合いと小動きであった。

今週は短国買入オペが、19日に10,000億円、23日に7,500億円で実施された。19日のオペは平均利回較差+0.007%、按分利回較差+0.006%と、ここ最近の業者のポジションの積みあがりを反映し、小甘い結果となった。23日のオペは平均利回較差+0.006%、按分利回較差±0.000%と、レートが上昇しているものの、売れ行きが芳しくない状況を反映した結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、25日にかかる発行から、鉄鋼・機械・石油業態等から大型の発行が見られたものの、週間発行総額は7,000億円程度にとどまった。a-1格以上の発行レートは、一部の6月末越え銘柄で強い買いが見られたものの、投資家やディーラーの玉確保の動きは以前ほど強く見られず、その他の銘柄に関しては浅いマイナスから0%近辺での推移であった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/19（月）	20,067.75	0.050	111.04	△ 0.058	△ 0.069	3,576,400
6/20（火）	20,230.41	0.050	111.69	△ 0.055	△ 0.070	3,608,100
6/21（水）	20,138.79	0.054	111.37	△ 0.056	△ 0.068	3,613,900
6/22（木）	20,110.51	0.050	111.15	△ 0.055	△ 0.065	3,603,700
6/23（金）	20,132.67	0.050	111.36	△ 0.051	△ 0.054	3,616,000

来週（6月26日から6月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/26 (月)	決定会合における主な意見(6月15,16日分 8:50) 5月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 4月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				5月の米耐久財新規受注
6/27 (火)	1-3月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	2Y 22,000億円 7/18発行			4月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 6月の米CB消費者信頼感指数
6/28 (水)					
6/29 (木)	資本市場研究会にて原田審議委員講演 5月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	TB3M 44,000億円 7/3発行			1-3月期の米GDP確報値
6/30 (金)	5月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 6月都都区部・5月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 5月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 5月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				5月の米個人所得・消費支出 6月のシカゴPM景況感指数 1-3月期の英GDP確報値 6月のユーロ圏消費者物価指数速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/26 (月)	▲ 300	▲ 9,700	▲ 10,000	全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 2,600 ▲ 400 300	1,300 1,500	100	▲ 9,900	流動性供給▲5500 TB3M発行▲44000償還37900
6/27 (火)	0	2,000	2,000	国債買入 短国買入		8,800 7,500	16,300	18,300	
6/28 (水)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
6/29 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
6/30 (金)	▲ 2,300	1,300	▲ 1,000	CP買入		3,500	3,500	2,500	地方税等
週 間 合 計	▲ 4,600	▲ 6,400	▲ 11,000	—	▲ 2,700	22,600	19,900	8,900	

6/26は日銀予想、6/27以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段の資金需給要因は無い。30日は調達を控える先が出てくると見込まれるため、無担保コールO/N加重平均レートの低下が予想される。

レポ市場は、投資家からの積極的な資金調達が続くと考えられ、▲0.08～▲0.05%程度での推移になると予想する。

短国市場は、29日に3M物の入札が予定されている。受渡しは7月となることもあり、四半期末越えの担保ニーズが剥落することから、大きな水準の変化は無いとみられるものの、結果が注目される。短国買入オペは30日に実施される見通し。30日に発表される国庫短期証券の買入残高見込みは短国市場の地合いを見通す上で重要であり、注目のしたい。

CP市場は、月末に向けて発行が活発になることが期待される。27日にはCP等買入オペが3,500億円でオファー（買入日30日）されることが予定されており、6月末越えの発行残高が膨らまない中、落札水準が注目される。

主要なイベントとしては、26日の決定会合における主な意見、29日の1-3月期の米国GDP確報値、30日の5月の全国CPI、5月の米個人所得・消費支出、1-3月期の英GDP確報値、6月のユーロ圏CPI速報値などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入